

# あなろの木

光明中 (255)  
 編集者: 藤上 薫  
 No. 14号  
 平成30年10月24日

## 秋の深まり

日増しく秋の気配が色濃くわたり、今この頃です。少し肌寒さすら感じる時もあり、体調管理には十分に気を付けよう。



### 合唱コンクールに向けて

昨日(19日)は、本番(19日)に向けてハルカでした。これまで各クラスで練習してきた、現時点での完成度を確認するが目的です。みんな他のクラスの歌声を「聴いて」いましたか。

午前中は、1年生・2年生が準備体操ハルカしました。そして午後からは3年生。歌声が上がるにつれて、声は大きくハモニも上がり、完成度は高くなっていました。2年生特に3年生のみんな前で歌うことの「自信と誇り」の持てる取り組みには、「部長(いっしょに)!!」と応援した。誰一人、取っかしがなく、笑ってました(歌唱の笑顔とは違いますが)。みんなが、いざ舞台上に立つと、心を張り詰めた緊張感の中で、指揮者の合図にあわせてピアノ伴奏が始まり、歌声が響いてきました。

このように、歌う時の真剣さは、もちろん、他のクラスの歌を聴く態度の真剣さ、そして歌い終わる前には、みんなが拍手を贈られる。この光景を目にし、来週の本番が楽しみではなくなるはずはない。

突然前を突くのが、来週の土曜日(19日)、校区である生駒小学校の運動会を見に行きました。朝から降り始める雨の降り、本意は思い、然し一瞬、心細さを感じましたが、幸いすぐに天候は回復し、全校児童の元気な様子を見ることができました。特に、開会式直後の全6年生異音くおる「鼓

笛隊行進」は、とても見事で、一糸乱れぬ鼓笛の響きと、ピアノ演奏のピアノの使ったダンスや、細かな隊形変化、それとトクとして指揮者の号令に聴き入り、見入っていました。そして、その後の演奏を終えて、木鼓の音に合わせて演奏しているのが、退場門をくぐり、最後の集合場所まで、決して気が散らず、胸をたたく行進隊らしく、会場のなかで途切れることがない拍手が送られ続きました。そして拍手のなかで、胸がじんわりと熱く、とても感動を受けました。そして、改めて、本校の子どもたちが多くが「この感動の伝統をつなぐ経験」をしているのだと、思いました。

先、体育大会、文化祭もそうであって、この合唱コンクールでの目的が、みんなが合唱を通して体験する宝物の時間。

昨日(19日)の朝の会前、2年生のクラスで、ハルカの頑張りを伝えた際に、一人の男子生徒が「頑張りました。教室では大きな声が出なくて、いざ舞台上に立つと、胸も力が出ていました」と話してくれました。とてもいい返事じゃありませんか。頼もしい限り、本番頑張れよ! 期待しています!」の励まし「ワウ!!」と答えてくれたその顔は、キラキラしていました。

今、総練習(19日)ですが、校長室で、練習する歌声が響いてきます。

来週の本番に向けて、自分たちがこの一週間で何をどれだけか、頑張ることが大切です。この一週間、できるだけ、取り組む。とて素晴らしい時間(一週間を僕たちは)を過ごさなければ。

「その最後までやるから。今、やることに喜びを感じて!!」  
 「頑張れみんなよ! 一週間後を目指してよ!!」

### MEMO

「聞く」は、音や声を耳に感じ認める。聞いて知るという意味。  
 「聴く」は、聞こえるものの内容を理解しようと思っ進んでいく意味。